

和泉郷土資料館に展示されているデボン系上穴馬層産石灰岩塊の由来とその意義

山本 久大*・前田 裕一*・酒井 佑輔**

The origin of a limestone block from the Devonian Kamianama Formation on display
in the Izumi Local History Museum and its significance.

Hisahiro YAMAMOTO*, Hiroichi MAEDA* and Yusuke SAKAI**

(要旨) 福井県大野市上伊勢のデボン系上穴馬層より採取された石灰岩塊について、和泉郷土資料館で展示に至った由来について報告する。この石灰岩塊は、ハチノスサンゴ類、日石サンゴ類、四射サンゴ類、腕足類、層孔虫類、ウミユリ類の化石を含む。

キーワード：飛騨外縁帯 上穴馬層 デボン紀 九頭竜湖 大野市

1. はじめに

福井県大野市上伊勢周辺には飛騨外縁帯のデボン系上穴馬層 (Matsumoto, 2012) が分布しており、三葉虫類、サンゴ類、腕足類、ウミユリ類などの化石が報告されている (例えば、河合ほか, 1957; Yamada, 1967; 安野, 2001)。本稿では、和泉郷土資料館で屋外展示されている上穴馬層産石灰岩塊 (図1) の由来についてまとめたので報告する。

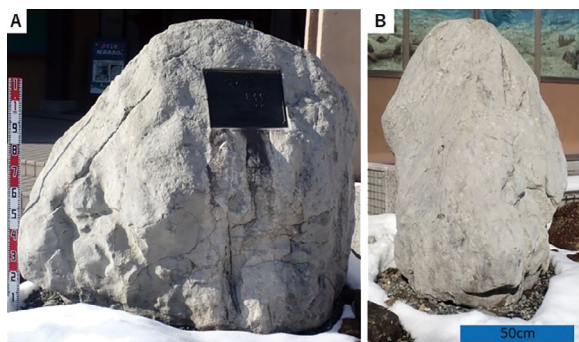


図1. 和泉郷土資料館で屋外展示されている上穴馬層産石灰岩塊。Aは南側、Bは西側を撮影した写真。Bのスケールバーは50cmを示す。

2. 展示に至る経緯

和泉村 (現在の和泉郷土資料館) は、古くから多様な時代の地層が分布し、各時代の化石が産出する地として知られており、地元ではこれらを活用した教育普及活動が行われていた (和泉村教育委員会, 1977)。1970年代初め、和泉村において化石展示を含む資料館 (現在の和泉郷土資料館) の建設が計画され、展示物を充

実させるべく九頭竜川流域および九頭竜湖周辺より産出する化石・岩石標本の収集が大野地球科学研究会を中心に行われた。

本稿で扱う石灰岩塊は、著者の前田が1964年に上穴馬層が分布する上伊勢地域の伊勢川において発見した。前田が、全国的に見ても希少な地質時代であるデボン紀の化石を含んでおり、且つ来館者の目を引く大型の展示物として、和泉地区を代表する化石としてふさわしいとの思いから、和泉村教育委員会へ石灰岩塊を紹介したことをきっかけに、この石灰岩塊は資料館建設予定地へ輸送されることになった。1977年初夏に和泉村教育委員会と大野地球科学研究会により採取地の現地調査が行われた (図2, 図3)。石灰岩塊の採取は、伊勢川に接岸する仮設作業道を整備した後、クレーン付きトラックを使用して行われた。そして、資料館が開館前の1977年8月初旬、この石灰岩塊は現在の場所に設置された。



図2. 1977年初夏の現地調査の際に伊勢川で確認された、採取前の上穴馬層産石灰岩塊 (撮影：和泉村教育委員会 武田知道氏)。

* 大野地球科学研究会 〒912-0022 福井県大野市陽明町3-609-2
Ono Geoscience Association 3-609-2, Youmeicho, Ono, Fukui 912-0022, Japan
E-mail: fossil.oga@gmail.com

** 大野市教育委員会 〒912-8666 福井県大野市天神町1-1
Ono City Board of Education 1-1, Tenjincho, Ono, Fukui 912-8666, Japan

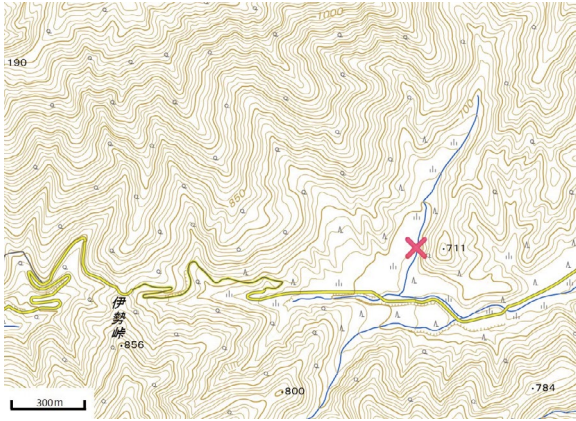


図3. 福井県大野市上伊勢地域における石灰岩塊採取地の位置 (×印). 国土地理院の地理院地図Vector (<https://maps.gsi.go.jp/vector/> 閲覧日2025年11月20日) を変更して作成.

3. 石灰岩の特徴

石灰岩塊のサイズは、高さ約1.3m、幅約0.8m、白灰色の石灰岩である。本研究では、岩塊表面に見られる化石を観察するため、表面に付着している泥や苔等を高圧洗浄機を用いて除去した。観察の結果、ハチノスサンゴ類、日石サンゴ類、四射サンゴ類、腕足類、層孔虫類、ウミユリ類など、上穴馬層より産出するほとんどの分類群が見られたことから (図4)、この石灰岩塊が上穴馬層に由来するものと分かる。

石灰岩中に含まれる化石は、同じ九頭竜湖周辺地域で見つかる中生代のアンモナイト等の化石に比べると

観察しにくく、判別にはある程度の慣れが必要である。和泉郷土資料館の石灰岩塊は、上穴馬層の化石を観察する入門的な標本として非常に適しており、古生物・化石の教育普及において果たす役割は大きいと考えられる。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、大野地球科学研究会の高津琴博氏には、石灰岩塊に関する資料を提供していただくとともに、原稿を読んでいただき、有益なコメントをいただいた。またフィールド調査においては、高津琴博氏ならびに太斎 瑛氏に援助をいただいた。また著者の山本の恩師である武田宜弘氏には写真資料について有益なコメントをいただいた。以上の方々に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 和泉村教育委員会, 1977, ふるさと和泉 いずみ村の地質と化石. 和泉村教育委員会, 62p.
河合正虎・平山 健・山田直利, 1957, 5万分の一 地質図幅「荒島岳」および同説明書. 地質調査所, 123p.
Matsumoto, T., 2012, Geology of the Hida Gaien Belt in the upper Kuzuryu-gawa River Area in Ono City, Fukui Prefecture, Central Japan. *Resource Geology*, **62**, 384-407.

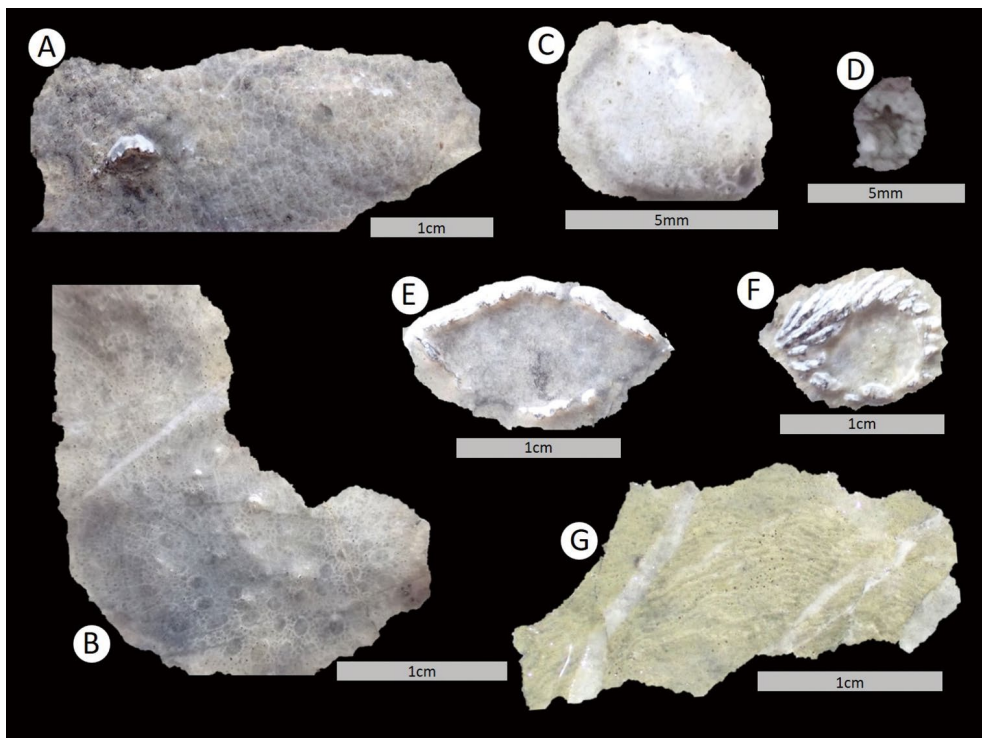


図4. 上伊勢産石灰岩塊表面に見られる化石。
A: ハチノスサンゴ類の横断面. B: 日石サンゴ類の縦断面～横断面. C: 四射サンゴ類の横断面.
D: ウミユリ類の柄の断面. E, F: 腕足類の断面. G: 層孔虫類の縦断面.

Yamada, K., 1967, Stratigraphy and Geologic Structure of the Paleozoic Formations in the Upper Kuzuryu River District, Fukui Prefecture, Central Japan. *Science Reports of the Kanazawa University*, **12**, 185-207.

安野敏勝, 2001, 和泉村－九頭竜川上流の手取層群と飛騨外縁帯. 北陸の自然をたずねて編集委員会編, 日曜の地学 6 北陸の自然をたずねて, 築地書館, 68-72.

The origin of a limestone block from the Devonian Kamianama Formation on display in the Izumi Local History Museum and its significance.

Hisahiro YAMAMOTO, Hiroichi MAEDA and Yusuke SAKAI

Abstract

This study reports about the origin and significance of a limestone block from the Kamianama Formation on display in the Izumi Local History Museum. The limestone block contains several fossils such as favositids, heliolitids, rugose corals, brachiopods, stromatoporoids and crinoids.

Key words

Hida Gaien belt, Kamianama Formation, Devonian, Kuzuryu Lake, Ono City

